



# 光栄の森

平成26年10月 毎月1日発行 第76号  
発行者 光栄一口テック 湯岑

## 10月にむかって

代表取締役 三田雅憲

暑さがようやく峠を越し、朝夕は少し寒いぐらいになってきました。幼稚園や小学校では運動会もたけなわで、道々に子供たちが体操服で楽しげに歩いている姿を見るとほほえましく感じます。

私たちの仕事はこれからが本格的に動き出しますので、一人ひとりが今以上に気合を入れて自分の力を十二分に発揮していただきたく思います。  
前月は、私事体調を崩し入院検査をいたしました。あらためて身体が健康であることの大切さや家族をはじめどれだけの人に心配をかけてしまうかを実感しました。  
元気なお客様や同業他社の人々が病気によりあつという間にお亡くなりする姿を見るにつけ、生かされていることは当たり前ではない、もっと世の中に役立つよう努力しなければならないし先祖や親に喜んでもらえる行いを重ねなければならないことを感じました。  
では何が自分にできるか考えたとき、目の前の仕事を一生懸命にやることしか思いつきませんでした。私が尊敬する京セラの稲盛和夫氏は『6つの精進』の中で次のように述べられています。

- ①誰にも負けない努力をする。（仕事に惚れ夢中になって人並み以上の努力をすることが良い結果を生む）
- ②謙虚にして驕らず。（成し遂げる人は、情熱や闘魂を持ちながら謙虚で控えめな人である）
- ③反省のある毎日を送る。（一日の終わりに人として正しいことを行えたか自己に問う）
- ④生きていることに感謝する。（いたずらに不平不満を持って生きるのではなく現状今あることに素直に感謝する）
- ⑤善行 利他行を積む。（良いことを思い、善き事を実行すれば運命をよき方向へ変えることができる）
- ⑥感性的な悩みはしない。（済んだことにいつまでも悩み心労を重ねるのではない）

どれも難しくできるようでできないのですが、今回は④に関して実感を行いました。  
①②③⑤は、特に難しく思います。

先日ある社長様より、先祖や親孝行することと謙虚にすることの大切さを実体験をまじえてお聞きする機会がありました。“親孝行”や“謙虚”など本当に今のわれわれにとっては死語のような言葉ですが、われわれもそのことを次世代に残していきたいと感じております。

正月まで、仕事が積み重なって入ってくると思いますが皆で力を合わせて頑張っていきたいと存じます。